

2021年度 第3四半期 決算概要

2022年2月7日
沖電気工業株式会社

2021年度 3Q累計 決算の概要

- 半導体他部材調達影響が想定以上に拡大。
- 売上高は部材調達影響の他、前年比では大型案件減少により減収。
- 営業利益は減収影響あるも、構造改革による固定費減に加えて貸倒引当金戻入もあり前年比改善。
- 構造改革に伴う特別損失は概ね予定通り。

(単位：億円)	21年度 実績	20年度 実績	前年比
売上高	2,464	2,669	△205
営業損益	△4	△26	+22
経常損益	△2	△34	+32
(親会社株主に帰属する) 四半期純損益	△65	△85	+20
USD平均レート (円)	111.1	106.1	+5.0
EUR平均レート (円)	130.6	122.4	+8.2

- 2021年度第3四半期は、もともと半導体を始めとする部材調達影響のピークと見ておりましたが、残念ながらその想定を超えた影響を受け、それが現在も継続しております。
- 売上高は、205億円減少の2,464億円、営業損益は4億円の損失となりました。売上高、営業利益とも、ソリューションシステムの減収影響が大きく出ておりますが、詳細は次ページ以降でご説明いたします。
- 営業利益は、構造改革による固定費改善に加えて、中国ATM事業の債権について、現地訴訟での1審勝訴を受け、貸倒引当金の適正化に伴い、約31億円の戻入をした関係で、前年比では22億円の改善となりました。
- 経常損益は2億円の損失、前年比では32億円改善です。
- 四半期純損益は、事業構造改革費用として28億円を計上したことなどにより、65億円の損失となりました。
- 期中の平均為替レートは、USドルは111.1円、対前年5円の円安。ユーロは130.6円、同じく8.2円の円安です。

2021年度 3Q累計 セグメント別売上高/営業利益

(単位：億円)

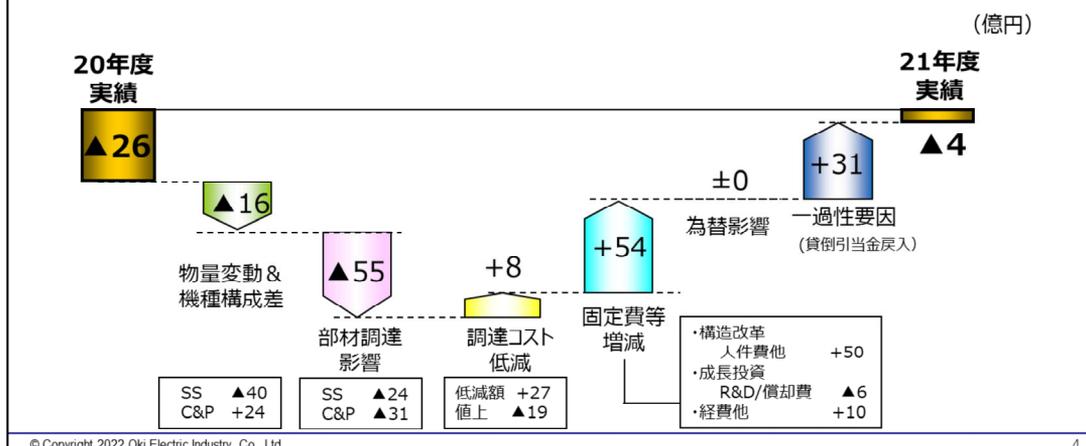
売上高	21年度 実績	20年度 実績	前年比
ソリューションシステム	1,076	1,273	△197
コンポーネント&プラットフォーム	1,385	1,391	△6
その他	3	5	△2
合計	2,464	2,669	△205

営業利益	21年度 実績	20年度 実績	前年比
ソリューションシステム	15	65	△50
コンポーネント&プラットフォーム	31	△43	+74
その他	2	△2	+4
消去・本社費	△52	△46	△6
合計	△4	△26	+22

- セグメントごとの売上高と営業利益について。
- ソリューションシステムの売上高は、前年比197億円の減少となる1,076億円。これまでお伝えしている通り、前年度にあった通信キャリア向けネットワーク構築案件や、官公庁向けシステム案件といった大型案件の反動減に、部材調達影響も加わり、減収となりました。
- 前年比約200億円の内訳を分解すると、大口案件の影響で約110億円、部材調達影響で55億円、その他、お客様のご都合による期ズレ等の影響で35億円のマイナスとなっています。今期の計画では大口案件の約半分程度、新規案件で打ち返そうと企図していましたが、逆に部材調達影響もあり、結果、大幅な減収となっています。
- コンポーネント&プラットフォームは、前年比6億円の減収となる1,385億円。後ほど事業部門ごとの概況でもご説明いたしますが、コンポーネント&プラットフォームも部材調達の影響を受けてはいるものの、FA/半導体製造装置向け市場を抱えるプラットフォーム事業は増収となり、トータルではほぼ前年並みとなりました。
- 営業利益については、ソリューションシステムは前年比50億円減少し15億円。コンポーネント&プラットフォームは、情報機器事業の固定費改善効果に加え、先に述べた貸倒引当金のプラスもあり、前年比では74億円と大きく改善し、31億円の営業利益となりました。
- なお、営業利益の前年対比での変動は、次のページで詳しくご説明いたします。

2021年度 3Q累計 営業利益の変動要因

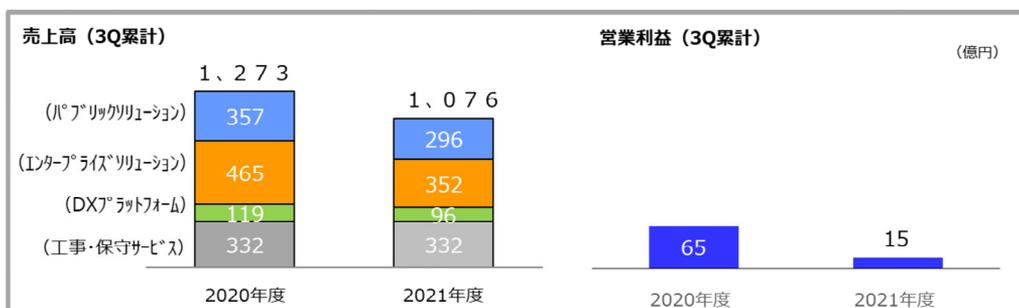
- FA/半導体製造装置向売上は好調を維持、ソリューションシステムの減収等により物量変動全体ではマイナス。
- 部材調達影響は想定より拡大。
- 調達コスト低減も値上影響により低減額は減少。
- 構造改革、グループ共通費削減および経費抑制により固定費は大きく改善。
- 中国ATMの債権に対する貸倒引当金の一部を戻入。



- 物量変動、機種構成差は、ご説明の通り、各々の事業セグメントの物量増減が、ほぼそのまま反映されている形です。
- 部材調達に伴う影響は、第3四半期累計では約55億円の影響が出ています。売上高では約180億円の影響です。
- 調達コストについては、約27億円の低減が実現できました。しかし、逆に調達難に伴う部材の値上げ影響が19億円程度あり、ネットでは8億円の低減にとどまりました。
- 固定費の増減は、コンポーネント&プラットフォームの海外を中心とした人員削減効果、および中計の施策にある、グループ共通費用削減といった構造改革効果が、約50億円出ています。成長投資による費用増は継続、逆に部材調達影響への対策としての経費抑制も行った結果、全体合計では約60億円の固定費減となっています。
- 一番右に、貸倒引当金の戻入31億円を記載しています。なお、この裁判については、現在も係争が続いており、今後の進展に伴い開示すべき事項が生じた際は、速やかにお知らせします。

ソリューションシステム事業 概況

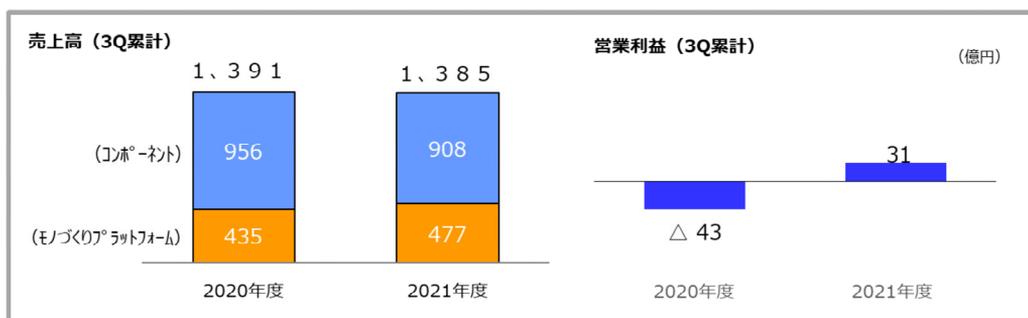
- パブリック、エンタープライズにおける前期大型案件減少、
エンタープライズ、DX-PFを主とした部材調達影響のほか、期ズレにより減収減益。
- DX領域売上3Q累計 201 億円(パブリック 51,エンタープライズ 114,DX-PF 36)
部材調達影響、期ズレもあり、進捗は伸び悩み。



- 5ページから、事業部門ごとの概況説明になります。
- ここまで、調達影響と、ややひとくくりでご説明してきましたが、事業部門ごとに若干影響のレベルと範囲が異なりますので、ここではできるだけ事業部門ごとの特徴をご説明します。
- まず、ソリューションシステム事業について。この第3四半期実績においては、ソリューションシステムの売上影響は、想定よりも悪化しています。想定を超えた要因として、調達影響を受ける部材の範囲拡大と、それに伴うお客様の対応です。
- 部材調達の影響範囲については、影響を受ける部材が半導体以外にも、生板、電源やコネクタといった幅広い分野に拡大しています。加えて、部材そのものだけでなく、例えばネットワーク機器、サーバーといった、いわゆる機器類の調達まで影響が波及してきています。
- また、こういった状況を踏まえて、お客様からも無理してこの第4四半期にということではなく、安定した翌期以降の納期へというような延伸のご了解や、逆にお申し出を受けています。これらの影響が、エンタープライズやDXプラットフォームを中心とした分野で出ており、減収減益となっています。
- 一方で、部材高騰化の影響については、ソリューションシステムにおける第3四半期の影響は想定範囲にとどまっています。
- 成長戦略であるDX領域の売上高は201億円。先に述べた各種期ズレ等の影響もあり、現時点での今期計画400億円に対する確保率も約8割程度と伸び悩んでおり、大変厳しい状況です。

コンポーネント&プラットフォーム事業 概況

- コンポーネントは部材調達影響により減収。
- モノづくりプラットフォームはFA/半導体製造装置向け好調により増収。
- 収益面では情報機器事業の固定費削減効果、中国ATMの債権に対する現地訴訟勝訴による貸倒引当金戻入(31億円)もあり改善。



- コンポーネント&プラットフォームの事業概況です。
- コンポーネント事業も、同じように部材不足の影響は受けていますが、この第3四半期はもともと影響のピークと織り込んでいたため、生産遅延の影響と値上げ影響は上期よりも拡大しているものの、概ね想定範囲の影響です。
- また、部材調達影響が比較的少ないFA/半導体製造装置市場向けの事業が引き続き好調だったこともあり、モノづくりプラットフォームの全体としては、減収影響を打ち返して、下の表にある通り、全体では増収となっています。
- なお、コンポーネント&プラットフォームでも、年間ベースでは値上げの影響を主因に、残念ながら想定を上回る影響が出る見込みです。
- 一方利益面では、情報機器事業の構造改革による固定費の改善は進展しており、前年比では大きく改善しています。

2021年度 第3四半期 B/Sの概要

- 各資産・負債の構成に大きな変化無、総資産は圧縮。
- 自己資本比率は2.0ポイント減少。

(単位：億円)	21年 12月	21年 3月	前年度末比
流動資産	2,050	2,222	△172
固定資産	1,572	1,510	+62
資産の部	3,622	3,732	△110
流動負債	1,675	1,542	+133
固定負債	921	1,058	△137
負債の部	2,596	2,599	△3
自己資本	1,024	1,130	△106
その他	2	3	△1
純資産	1,026	1,133	△107
負債及び純資産合計	3,622	3,732	△110
自己資本比率(%)	28.3	30.3	△2.0
DEレシオ(倍)	0.9	0.7	△0.2

- 各資産、負債の構成に大きな変化はありません。総資産は前期末から110億円減少の3,622億円。自己資本は106億円減少の1,024億円となりました。
- 結果、自己資本比率は28.3%、D/Eレシオは0.9倍となっています。

2021年度 第3四半期 キャッシュフローの概要

- 営業キャッシュフローはサプライチェーン影響による運転資本増により前年比悪化。成長投資と翌期以降の仕込みとなる投資は継続。

(単位：億円)	21年度 実績	20年度 実績	前年比
I 営業キャッシュフロー	△3	110	△113
II 投資キャッシュフロー	△152	△111	△41
フリー・キャッシュフロー(I + II)	△155	△2	△153
III 財務キャッシュフロー	35	△71	+106
現金および現金同等物の残高	303	392	△89
固定資産取得額	149	228	△79
減価償却費	97	93	+4

- フリー・キャッシュフローは155億円のマイナスとなりました。前年比悪化していますが、主に運転資本の増によるものです。サプライチェーン影響対策として、部材の確保、あるいは部材不足による出荷遅れに起因した棚卸の増が影響しています。
- 投資キャッシュフローについては、前年行った芝浦・蕨地区の不動産取得と売却に伴うテクニカルな変動の影響を除くと、主には成長投資約30億円増によるものです。
- なお、現金同等物は303億円と必要な手元資金は確保しています。

2021年度 通期業績予想の修正

- 直近の業績動向等を踏まえ、2021年5月10日公表の業績予想を下方修正。

前提為替レート	4Q	前回
USD	114円	105円
EUR	129円	120円

(単位：億円)	21年度 今回予想	21年度 前回予想	前回比	20年度 実績	前年比
ソリューション システム	売上高 1,730	1,985	△255	1,908	△178
	営業利益 125	165	△40	163	△38
コンポーネント & プラットフォーム	売上高 1,915	2,010	△95	2,015	△100
	営業利益 35	25	+10	△4	+39
その他	売上高 5	5	0	6	0
	営業利益 0	0	0	△1	0
消去・本社費	営業利益 △70	△70	0	△64	△6
連 結 合 計	売上高 3,650	4,000	△350	3,929	△279
	営業利益 90	120	△30	95	△5
	経常利益 90	120	△30	94	△4
	当期純利益 35	35	0	△2	+37

- 直近の業績動向を踏まえ、2021年5月10日公表の業績予想を下方修正しました。
- これまでご説明してきた通り、残念ながら年間を通して見ると、1つは影響を受ける部材や機器の範囲拡大。2つ目に、それに伴うお客様の变化。3つ目に価格上昇の影響。この3点において、想定を上回る範囲で発生する見込みであることから、今回売上、営業利益、経常利益ともに精査し、業績予想を下方修正することとしました。
- なお、当期利益については、部材調達影響を受けた各種スリム化、コスト合理化策や、営業外の為替差損益の改善、その他、特別対策も継続して検討、進行しているため、前回公表値を据え置いています。
- なお、現時点で来期以降の延伸案件が相当程度積み上がってきていることから、OKIとしては、引き続き必要な投資と準備は続け、来期以降の納入を確実に実現し刈り取ること、今期についてもその影響をさらに抑制すべく、調達先の拡大や生産対策、コスト増に対する販売価格の適正化、費用コスト対策といった対応に、引き続き取り組んでまいります。
- 以上、簡単ではございますが、第3四半期の決算説明とさせていただきます。
- ご清聴ありがとうございました。

(補足) セグメント別売上高/営業利益 (四半期別推移)

(単位：億円)

売上高	20年度					21年度		
	1Q	2Q	3Q	4Q	年間	1Q	2Q	3Q
ソリューションシステム	396	431	446	635	1,908	339	350	387
コンポーネント&プラットフォーム	416	489	486	624	2,015	459	448	478
その他	2	1	2	1	6	1	1	1
合計	814	921	934	1,260	3,929	799	799	866

営業利益	20年度					21年度		
	1Q	2Q	3Q	4Q	年間	1Q	2Q	3Q
ソリューションシステム	18	22	25	98	163	△1	△1	17
コンポーネント&プラットフォーム	△16	△21	△6	39	△4	△16	4	44
その他	0	△1	△1	1	△1	0	1	1
消去・本社費	△12	△16	△18	△18	△64	△13	△18	△21
合計	△11	△15	0	121	95	△30	△14	40

(補足) 各事業の主な製品およびサービス

ソリューションシステム

- **パブリックソリューション**
 - 道路 (ETC/VICS)、航空管制、防災、消防
 - 中央官庁業務システム、政府統計システム
 - 防衛システム (水中音響/情報)
 - インフラモニタリング
- **エンタープライズソリューション**
 - キャリアネットワーク、映像配信、5G・ローカル5G
 - 金融営業店システム、事務集中システム
 - 鉄道発券システム、空港チェックインシステム
 - 製造システム (ERP/IoT)
- **DXプラットフォーム(プロダクト/サービス)**
 - AIエッジコンピューター、センサー、IoT NW
 - PBX、ビジネスホン、コンタクトセンター
 - クラウドサービス
- **工事・保守サービス**

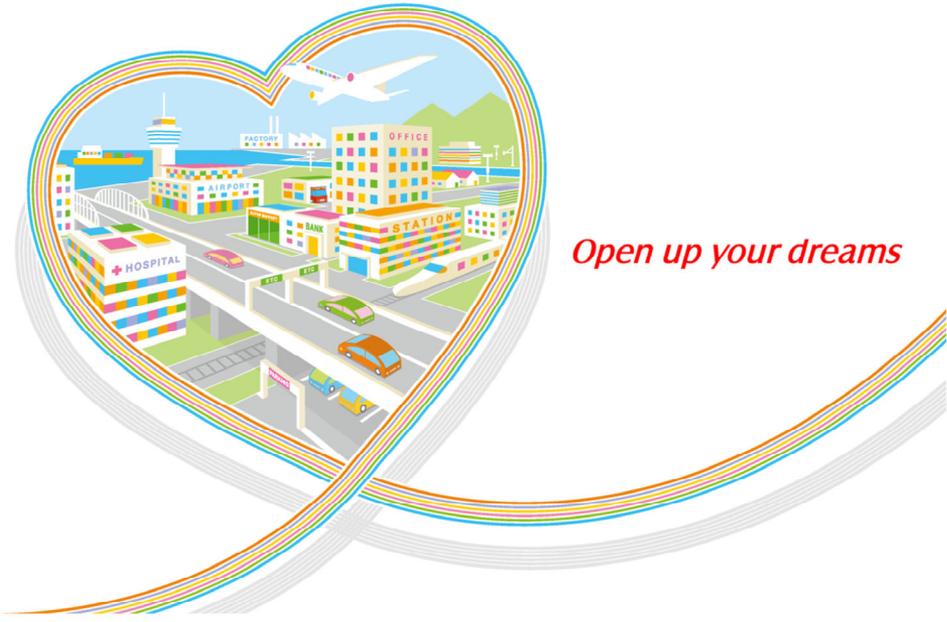
コンポーネント&プラットフォーム

- **コンポーネント**
 - A T M, 現金処理機
 - 営業店端末、予約発券端末、チェックイン端末
 - ATM監視・運用サービス
 - LEDプリンター
 - 大判インクジェットプリンター
 - ドットインパクトプリンター
- **モノづくりプラットフォーム**
 - 設計・生産受託サービス
 - プリント配線基板

ご注意

※本資料における業績予想および事業計画等は、当社が現時点で入手可能な情報と、合理的であると判断される一定の前提に基づいております。したがって実際の業績は様々な要因により、これらと異なる可能性があることをご承知おきください。

※億円単位の数値の表示方法について：
各項目の数値は、それぞれの数値の億円未満を四捨五入して表示しています。
また増減については、億円単位の数値を元に計算しています。



Open up your dreams